

RCV

Red Cross Volunteer

2022.2
No. **78**
February



和歌山県障害者支援赤十字奉仕団 活動の様子

つながる、赤十字とSDGs 第2弾

特集1 SDGsで考える新たな取り組み

世界に広がるネットワーク

特集2 赤十字の仲間たちの活動を知ろう!

特集3 赤十字ユース委員会って何?

・編集後記

(この情報誌は、RCV編集委員の協力で作られています)



日本赤十字公式キャラクター
ハートラちゃん



つながる、赤十字とSDGs 第2弾

SDGsで考える新たな取り組み

今回は、RCV No.76で大好評だったSDGs特集の第2弾!!
SDGs「目標11」についてみんなで考えてみよう!!

赤十字ボランティアは、日頃、地域の課題やニーズに応じた活動に取り組んでいます。地球規模の課題解決のために設定されたSDGsは、赤十字ボランティアにとって地域ニーズを発見するヒントになります。SDGsの1つ「目標11」に焦点を当て、どのように地域ニーズを発見し、活動しているかについて2つの奉仕団取材しました。

コロナ禍での避難所運営訓練の実施 (仙台市西多賀赤十字奉仕団)

奉仕団での活動内容について教えてください

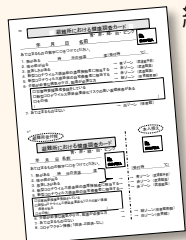
献血の呼びかけ、防災訓練や炊き出し、講習等の活動を行っています。

「コロナ禍における避難所運営訓練」について教えてください

防災訓練は、実際に災害が起きたことをイメージして行っています。これまでの連合町内会主体の訓練は新型コロナウイルスクラスター発生等の危険性を考慮し中止となりました。しかし、奉仕団としてはコロナ禍だからこそ緊急時の対応が必要であると考え、2020年より奉仕団が主体の防災訓練を一ヶ所の指定避難所で行いました。また、実際に災害が起こった際は学校など各地域の避難所に避難することから、2021年は奉仕団員が各地域の避難所に分かれて防災訓練を行いました。

工夫した点がありますか

地域住民は密を避けるため、各家庭で決められた時間に訓練を行うこととしました。そして避難所運営訓練は民生委員や奉仕団役員のみで実施し、「今回の開催がコロナ対策（ゾーニングなど）を行った安全な訓練であること」をMAP等作成したものをを用いて説明し、開催前に皆さんに納得いただけるよう心がけました。



健康調査カード

今回と前回で改善した点や変更点がありますか

受付時に、参加者が記入する健康調査カードへ新たに本人控えを追加しました。その他にも団員同士の意見交換を訓練直前まで行い、さまざまな改善点を検討しました。

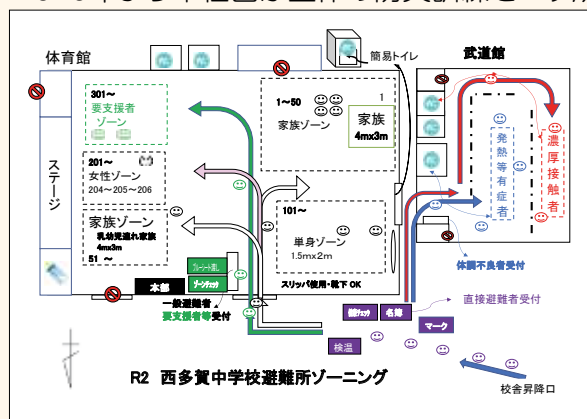
活動を通して嬉しかったことはありますか

地域の皆さんが、防災訓練などで説明したことに対して難しく捉えず「そんな簡単なことならできる」と前向きに考えてくれている声を聞くと嬉しく思います。

※スフィア基準とは…災害や紛争などの被災者すべてに対する人道支援活動を行う各種機関や個人が、被災当事者であるという意識をもって現場で守るべき最低基準の通称。



防災訓練時の様子



避難所のゾーニングマップ



防災訓練時の避難所の様子

奉仕団員の思い

赤十字の活動をもっと啓発していきたいです。
今は「スフィア基準*」に則り支援として「生きのびのための知識」を身に付けてもらえるように広めています。



SDGsとは

現在世界では、頻発する紛争やテロ、異常気象、貧困など多くの課題を抱えています。この状況が悪化しないように「環境」「社会」「経済」を良い方向に変えることを目標としているのが「SDGs」と呼ばれる「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」です。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs「目標11 住み続けられるまちづくりを」について



過去40年にわたって、人びとが避難や移住をしなければならないような自然災害の発生件数が大きく増えています。目標11では「誰もがずっと安全に暮らせて、災害にも強いまちをつくろう」を目標として様々な達成目標と実現のための方法を掲げています。

障がい者向け防災教材の作製 (和歌山県障害者支援赤十字奉仕団 グループあかり)

奉仕団での活動内容について教えてください

拡大写本や布の絵本など作ったものを必要とされる施設に寄贈しています。利用者の要望に添って必要なものを作る活動をしてきました。またAED訓練時に使う人形の服も作製しています。

「視覚障がい者向け防災教材」について詳しく教えてください

日赤作製の防災教材には、幼稚園・保育所向け「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん!」があるのですが、イラストメインのため視覚障がい者は内容の把握ができません。そこで手で触って理解してもらえようように立体版を作製しました。素材は、小さいお子さんが使えるよう、手で触れても危なくない、安全なものを選びました。また、災害時どこに危険が潜んでいるか教材を通じて学べるよう、ハサミに模した物を立体版教材に加える等の工夫をしました。利用者からは、普段の整理整頓について考える機会になったと伺っています。完成した立体版教材は、様々な場所で活用いただき、現在合計3個作製しています。



布の絵本を作製している様子



立体化した「きけんはっけん!」



倒れている時の様子



生徒たちにもらった感謝状

活動を通して嬉しかったことはありますか

盲学校や障がい児施設の生徒たちが、作ったものをすぐに手にとって遊んでくれたり、修理が必要なほど遊んでくれたりする様子を見ると嬉しくなります。また手作りの感謝状やみんなで歌を歌ってもらえたりすると奉仕団の活動をしていて良かったと思います。



作製したハートちゃん絵本

活動時に意識していることはありますか

どのように作るのが良いかやどうしたら楽しんでもらえるかなど、なるべくリクエストに応えられるように、意識して活動しています。これまで続けてこられたのは、自分たちが楽しんで活動してきたからだと思うので、無理をせず作製時の悩みも楽しめるように気持ちを明るくして活動していきたいです。

奉仕団員の思い

作ったものを喜んで遊んでいるお子さんや先生方が自分たちの活動を意味のあるものとしてくれていることに感謝しています。



赤十字の仲間たちの活動を知ろう！



世界の192の国と地域に赤十字・赤新月社が存在します。赤十字の基本原則の1つに「世界性（世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動する）」があります。現在新型コロナウイルス感染症は全世界の赤十字ボランティアが直面している課題です。オンラインの普及と活用が進んだコロナ禍だからこそ、世界との情報共有でボランティア活動のヒントが見つかるかもしれません。今回、国際赤十字・赤新月社連盟アジア大洋州地域事務所に
出向中の平井さんに、アジア大洋州の赤十字ボランティア活動について伺いました。

現在の業務について教えてください

主な業務は、アジア大洋州各国の若い赤十字ボランティアの活動促進等を支援することです。もともと日赤で働いていましたが、2020年から出向し、マレーシアで勤務しています。

新型コロナウイルス感染症は世界の赤十字ボランティアにどのような影響を及ぼしていますか

活動が制限されることが多く、各国のボランティアは、感染への不安や偏見などの悩みを抱えながら活動しています。赤十字としてもボランティアへ正しいコロナの情報を普及し、安心して活動ができるように心がけています。コロナ禍前と比べると、ボランティアに参加する人々が増えているという調査結果（2020年分）が出ています。世界的にコロナ禍となる中で自分も何か出来ないかと考える方が増えているようです。コロナ禍でも世界の赤十字ボランティアは前を向いて活動してきました。

優良活動事例があれば教えてください

1つ目は、バングラデシュの活動です。バングラデシュでは、政府とボランティアが協働して様々なコロナ対応を行っています。2つ目は、マレーシアの活動です。マレーシアでは、ロックダウンのためオンライン授業や友人と直接会えない日々が長く続きました。そこで若いボランティアが、学べる機会・みんなと交流を持てる機会を考え、学生を対象としたオンラインイベントを毎月開催しました。他にも東南アジアの各国で、このような難しい状況の中でも出来ることをボランティアが企画、実施しています（各活動の詳細は次頁をご覧ください）。

「赤十字の強み」は何でしょうか

- ①一般市民にも政府にも「赤十字マーク」が信頼されていること。
- ②赤十字ボランティアは、日頃から地域に根付いた活動や研修を行っているため、助けが必要な時に真っ先に必要とされる活動が出来ること。
- ③世界中のネットワークを活かし、各国の赤十字社がお互いに学びあえること。

出向してから、印象的だったことや嬉しかったことはありますか

最前線で活動する世界中の赤十字ボランティアからいつも刺激を受けています。困難な状況にも負けず、常に新しいアイデアや情熱を持って活動しているボランティアは、私の仕事の原動力になっています。

日赤ボランティアへメッセージをお願いします！

ご自身の健康や安全を第一に、少しずつでも出来るときに出来ることを続けていただければ良いと思います。世界赤十字デーのテーマ「#何があっても立ち止まらない(#Unstoppable)」のもとに、ボランティア活動で周りにポジティブ（積極的で前向き）な影響を与えましょう！

平井さんプロフィール



日赤での主な経歴

（支部）青少年赤十字活動の支援、救急法等の講習普及
（本社）海外での開発協力事業（血液事業、ネパール地震の復興支援）、海外たすけあい等



姉妹社の赤十字ボランティア活動紹介

現在世界では新型コロナウイルス感染症が拡大していますが、コロナ以外も対応しなければならない活動があります。世界各地の赤十字ボランティアもそのことを意識して活動を継続しています。各国の最新の活動を簡単にご紹介します。



バングラデシュ赤新月社

政府との協働のもと、新型コロナウイルス感染症にかかる対応に多くのボランティアが関わっています。各地域で地元で根付いた活動を展開しており、現在はワクチン接種関連の活動（ワクチン接種への不安を軽減するような情報の発信、呼びかけやワクチン接種会場のサポート活動など）を行っています。



呼びかけをしている様子



ワクチン接種会場の様子

コロナ禍初期の活動

パンフレットの配布やSNSの活用により、一般の方々へ新型コロナウイルス感染症の正しい知識や手洗いなどの情報発信、衛生キットの配布などを行っていました。



オンラインイベント開催時の様子



マレーシア赤新月社

マレーシアでは、長い間オンライン授業が続いていた学生に向けて、若いボランティア主催でオンラインイベント（テーマは救急法、メンタルヘルス、気候変動等）を毎月開催しました。一般の学生も集まり、参加者が毎回1万人程度（YouTube視聴などによる見学者を含む）集まる大きなイベントとなりました。



東南アジアの赤十字・赤新月社



東南アジア（シンガポール、マレーシア、フィリピン）の赤十字ボランティアは、気候変動に関する「正しい知識」と「自分が出来ること」を伝えるためのマンガを作製し、一般市民の皆さんに共有しています。

他にもカンボジアでは環境保全のために植林活動を行っています。東ティモールでは、プラスチック廃棄物を再利用する活動を行っています。



植林をしている様子



プラスチック廃棄物を加工する様子



気候変動に関する内容のマンガ

赤十字ユース委員会って何？

皆さんは、赤十字ボランティアの活動をより良くするために活動している「赤十字ユース委員会」をご存知でしょうか？今回は、赤十字ユース委員会で「日本の若者と世界の若者のパイプ役」を担っているグローバルチームに所属する3名のメンバー取材しました。



アジア大洋州地域会議の様子

赤十字ユース委員会について教えてください

田中: 日赤ユース(若い)ボランティアの活性化を目指し、海外ユースボランティアとの懸け橋としての活動や国内の課題を改善するための活動を行っています。私たちは、前者を主に担っている、グローバルチームです。

普段どのような活動をされていますか

中津: 今年度は、4つのチーム(グローバル、協議会、研修、PR推進)に分かれて活動しています。設立間もないころは3チームで活動していました。その時々の日赤ユースの課題によってチーム名称や数は変わります。

田中: コロナの前から、もともとオンラインでの打ち合わせメインで活動しています。各チームの進捗状況を共有・相談するオンライン定例会を月1回行う他、直接集まって活動の振り返りや計画づくりを行う全体会を年2回行っています。

中津: 必要に応じてチームミーティングも開催しています。

コロナ禍での活動はどのように行っていますか

田中: 国際的な視点だと、コロナ前よりもオンライン化が進んだので、参加しやすい状況となっているように感じています。また研修もオンラインで実施することで、全国各地から参加しやすくなりました。世界的に活動環境も変わってきているように思います。

中津: やはりオンラインでの活動が増えています。この機会を活かし、若い人が参加しやすいような新たなコミュニティ作りや、様々なソーシャルメディアを用いた発信を増やしています。

赤十字を長く続けている理由がありますか

中村: 赤十字は、言われたことをやるだけではなく、自分で考えて活動できることが魅力です。

田中: 赤十字の大前提は「地域ニーズを基に活動する」ことですが、赤十字組織内のニーズに対して活動していくことも赤十字活動だと考えています。

海外の流れを取り入れたり、国際的なイベントに参加したりすることで、日赤ボランティアにとって何が期待できますか

中津: 国内の知見では対応できない課題でも、海外に視野を広げることで、解決の糸口が掴めるかもしれません。例えば、海外ボランティアと交流した際、日本にはない活動が展開されていると伺い、「ここまで地域に密着した活動ができるんだ」と驚きました。このように海外へ目を向けることで、日赤ボランティア

の課題解決に繋がる、新たな視点が得られるのではないかと期待しています。

田中: 赤十字の7原則の「世界性」を体感できること(共通の議題も、地域ごとの差異などもある)が自分にとって、とても貴重な機会だと感じています。

今後の目標はありますか

田中: 皆さんが感じている言語の壁などの不安を軽減できるようにサポートしたり、寄り添った活動もしていきたいです。

中津: アジアのほかの国に日赤ボランティアの優良事例を発信し共有していければと考えています。

中村: 国際イベントの周知と共に国内への働き掛けもしていければと思います。



APカフェの様子



中村さんが作製した、イベントのポスター

日赤ボランティアへメッセージをお願いします！

中村: コロナ禍ですが、オンラインなどを活用して、積極的にいろいろなことに取り組んで欲しいです。

中津: 自ら工夫して活動できることも、日赤ボランティアの大きな強みです。国内外問わず、新たな取り組みの創出や課題解決に向けたヒントを発見し、ぜひ積極的に取り入れていただきたいです。

田中: 赤十字ユース委員会も全国のボランティアと接点を持ち、一緒に様々なことにチャレンジしていきたいです。海外とのやり取りは、新たなことへの気づきや熱意を感じられるなど良さがあるのでそれを伝えたいです。



山口大学学生赤十字奉仕団
中村さん



香川県青年赤十字奉仕団
中津さん



神奈川県赤十字国際奉仕団
田中さん

学生。外部から来た国際イベントを国内に画像でPRなどを行っている。ユース委員内では、JRCを合わせると赤十字での活動歴は7年目。

社会人。奉仕団では献血推進・防災活動を行っている。ユース委員内では、PR推進チームでも活動。赤十字での活動歴は7年目。

社会人。ユース委員会は立ち上げから関わっている。国際会議に日赤ユースの代表として出席している。



赤十字ユース委員会について



赤十字ユース委員会のメンバーは現在10名で、皆さんと同じようにそれぞれ奉仕団に所属して活動しています。今回、その赤十字ユース委員会について紹介します。

歴史

赤十字運動へのユースの参画が促進される世界の動きを受け、2016年度に日本赤十字社内に赤十字ユース委員会が設立されました。

目的

日本赤十字社ユースボランティアの活性化

役割

1

日本のユースと世界のユースの
パイプ役を務める

役割

2

全国の日赤ユースと協力しながら日赤ユース
の課題解決に向けて活動を行う

チーム

現在、主に4つのチームで活動しています。



グローバルチーム

活動内容

- (1) グローバルなイベントやキャンペーンの参加促進
- (2) 国際会議への出席、国際赤十字・赤新月社連盟からの調査依頼の対応
- (3) 東アジアユースネットワークの活動計画の国内での推進
- (4) 英語に苦手意識のある日赤ユースが心理的安全性を持てるきっかけづくり

活動目標

グローバルなイベントやキャンペーンへの日赤ユースの参加度を向上させ、国際的なネットワークの強化に繋げる

今後の取組

- グローバルな交流をより参加しやすい場へ
- イベントの事前情報発信に加え、事後のイベント参加レポート発信
- 活動計画推進における国内ユースと協働



協議会チーム

活動目標

全ての青年赤十字奉仕団全国協議会(全協)委員が協力して活動できるようサポートし、毎年進化できる協議会にしてい

活動内容

- (1) 全協の活動報告ポスター作成
- (2) 活動しやすい環境づくり
- (3) 各種ツール運用のサポート
- (4) 次年度委員に向けた引継ぎ



2021年度の全協の様子

全協普及のため
全協新聞の作成



研修チーム

活動目標

国内のボランティア研修の状況を把握し、ボランティアにとって効果的な教育の場について検討する

活動内容

- (1) リモート研修の実施
- (2) 防災リーフレットの検討
- (3) 研修教材共有場所の検討

今後の取組

- 防災に関するリモート研修の実施
- 防災リーフレットの作成
- 研修教材共有場所の創出



PR推進チーム

活動目標

日赤ユースのPR活動や情報共有における課題の解決

※活動事例&メンバー募集情報「あゆみ」



活動内容

- (1) 「あゆみ」作成要領と雛形の見直し
- (2) LINEオープンチャットの創設、運用

今後の取組

- SNSを用いたPR活動を補助するための教材作成
- 統一アカウントやHPの作成および運用に関する検討
- 「あゆみ」フォーマットの改善
- 各国が持つSNSアカウントの情報収集&公開

その他の活動

上記以外にも様々な活動をしています。

- ・ワークショップの実施
- ・SNSキャンペーンの展開

赤十字ユース委員会グローバルチームはnoteで情報を発信しています！

https://note.com/jp_redcrossyouth



読者の
みなさん
の声

大募集



RCVをよりよい情報誌にするために、みなさまのご意見をぜひお聞かせください！

① 今号の特集へのご意見・ご感想

② こんな特集が見たい！

「こんな活動がしたい！どこかでしていないかな？」等、知りたい活動はありませんか？

③ 活動を全国に伝えたい！

掲載したい活動がありましたら、ぜひお知らせください。

④ RCVをメール配信しています！配信をご希望の方は
送信先のメールアドレスをご記載ください。

上記①～④をご記入のうえ、メールにて

rc-volunteer@jrc.or.jpまで

お送りください。

QRコードからも
ご回答いただけ
ます

プレゼント

抽選で10名様に
ハートちゃんボールペン
をプレゼント!!

4月30日(土)必着

当選者の方にはメールにてご連絡致します。



赤十字ボランティアへの

参加について

日本赤十字社の活動は、全国のボランティアによって支えられています。あなたも、“苦しんでいる人を救いたい”という思いを行動に移してみませんか？

赤十字ボランティアへの参加は、日本赤十字社各都道府県支部・施設で受け付けています。



赤十字 ボランティア

検索

RCV バックナンバー

はこちらから→

<https://www.jrc.or.jp/volunteer-and-youth/volunteer/document/>

Editor's Note

編集後記



RCVの編集に初めて参加しました。コロナ禍での感染症対策の実施訓練の貴重なお話を取材出来ました。出来ないから止めるではなく、どうしたら出来るのかを考えさせられた取材でした。

(赤十字語学奉仕団 山下)

RCVの編集委員として初めて参加いたしました。オンラインであることもあり、なかなか参加が難しかったですが、今後の赤十字の活動、そして社会課題についても考える経験となりました。

(上智大学 秋田)

昨年に引き続きRCV編集委員として参加致しましたが、インタビューを通して行動することの大切さを学びました。私も一歩を踏み出す勇気を持ちながら、これからのボランティア活動に励みたいと思います！

(明治学院大学 及川)

今回初めてRCV編集委員会に参加させていただきました。例え小さな働きであったとしてもそれが多くの命を救う術となり得るのだと取材を通して改めて痛感しました。情報誌作成で得た学びを今後も活かしていきたいです。

(明治学院大学 武井)

国によって活動内容は異なるが、どのボランティアも現地の人々のニーズに合わせ、その時できる精一杯の活動で「生命」を繋いでいるということだと思います。新型コロナウイルスが流行し、ボランティアに興味を持つ人が増えた今、団体間での繋がりや連携も更に深め、皆でこの状況を乗り越えられたら嬉しいです。

(上智大学 東山)

RCV編集委員を務めて2年目となりました。興味深いことに、赤十字社が見る若者の像は多面的です。若者は保護される者であり、活動する者であり、リーダーシップをとる者でもあります。多面性の全てを尊重する赤十字社のビジョンを、心より応援致します。

(上智大学 和田)

今回の冊子では赤十字ユース委員会への取材を担当いたしました。同世代の皆さんの熱い想いや活躍されている姿に刺激を受けました。私自身もコロナに負けず、出来ることから少しずつ行動していきたいと思っています。

(上智大学 村上)